

水平社宣言・綱領

The Declaration and General Principles of the Suiheisha

La Déclaration et les Principes généraux de la Suiheisha

Deklaration und Programmpunkte der Suiheisha

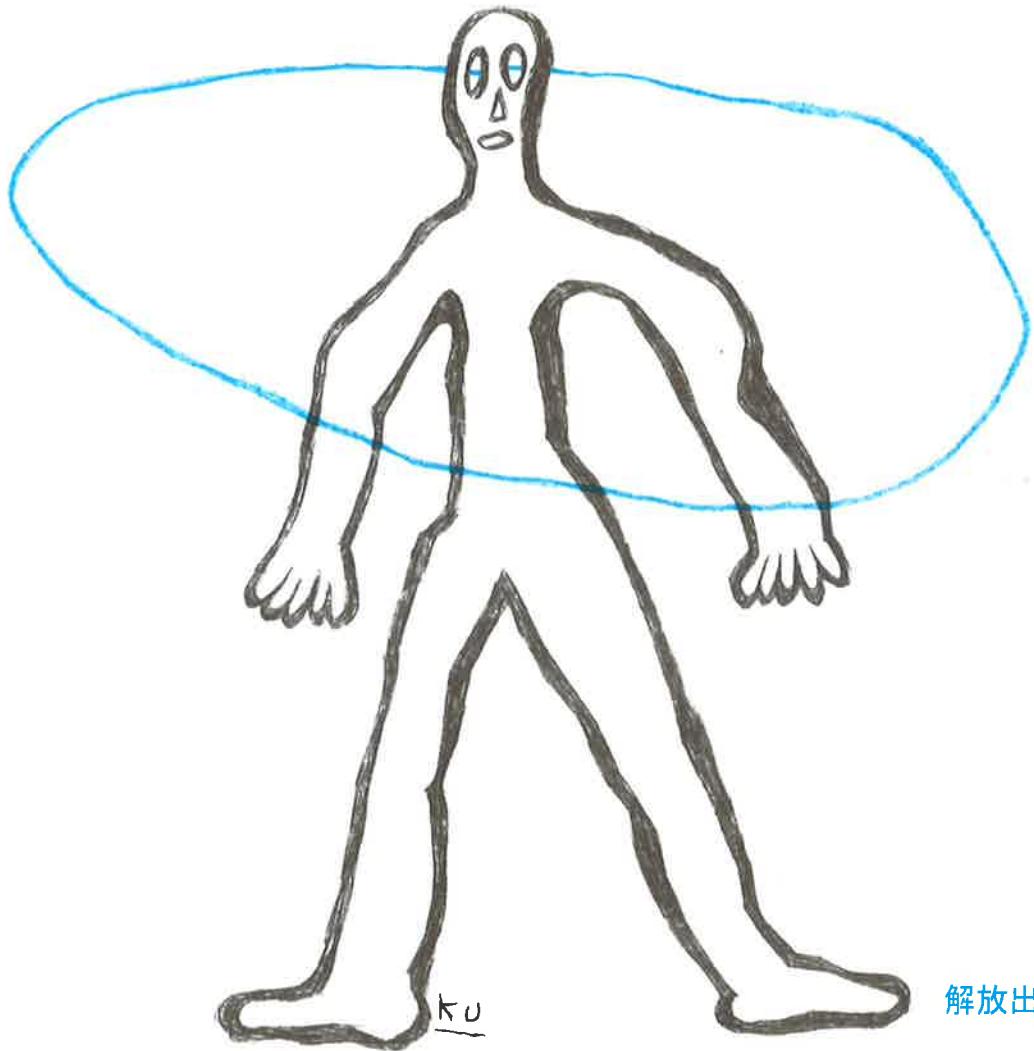
水平社宣言・綱領

수평사선언 · 강령

Declaración y Principios Generales del Suiheisha

Декларация и Основные принципы Суйхэйся

(社) 部落解放・人権研究所 編



解放出版社

宣　言

全國に散在する吾々特殊部落民よ團結せよ。

長い間處められて來た兄弟よ、過去半世紀間に種々なる方法、多くの人々によつてなされた吾等の爲めの運動が、何等の有難い効果を齎さなかつた事實は、夫等のすべてが吾々によつて、又他の人々によつて毎に人間を冒涖されてゐた罰であつたのだ。そしてこれ等の人間を勤むかの如き運動は、かへつて多くの兄弟を堕させた事を想へば、此際吾等の中より人間を尊敬する事によつて自ら解放せんとする者の集團運動を起せるは、寧ろ必然である。

兄弟よ、吾々の祖先は自由、平等の渴仰者であり、實行者であつた。陋劣なる階級政策の犠牲者であり男らしき產業的殉教者であつたのだ。ケモノの皮剥ぐ報酬として、生々しき人間の皮を剥取られ、ケモノの心臓を覗く代價として、暖い人間の心臓を引裂かれ、そこへ下らない嘲笑の唾まで吐きかけられた呪はれの夜の惡夢のうちに、なほ誇り得る人間の血は、潤れずについた。そうだ、そして吾々は、この血を享けて人間が神にかわらうとする時代にあつたのだ。犠牲者がその烙印を投げ返す時が來たのだ。殉教者が、その剝冠を祝福される時が來たのだ。

吾々がエタである事を誇り得る時が來たのだ。

吾々は、かならず卑屈なる言葉と怯懦なる行爲によつて、祖先を辱しめ、人間を冒涖してはならぬ。そうして人の世の冷たさが、何なんに冷たいか、人間を勤はる事が何んであるかをよく知つてゐる吾々は、心から人生の熱き光を頼求禮讃するものである。

水平社は、かくして生れた。

人の世に熱あれ、人間に光あれ。

大正十一年三月

水　平 社

裏面を見よ

全国水平社創立時の綱領と宣言の原物
提供 京都市立崇仁小学校

The original document of the General Principles and Declaration that were adopted during the founding assembly of the Zenkoku Suiheisha (National Levelers' Association), owned by Sujin Elementary School, Kyoto city.

綱 領

- 一、特殊部落民は部落民自身の行動によつて
絶対の解放を期す
- 一、吾々特殊部落民は絶対に經濟の自由と職
業の自由を社會に要求し以て獲得を期す
- 一、吾等は人間性の原理に覺醒し人類最高の
完成に向つて突進す

目次 CONTENTS

●発刊にあたって Preface ————— 4

●水平社宣言・綱領・註

The Declaration and General Principles of
the Suiheisha and notes

[日本語]	—————	6
[中国語] 中文	—————	8
[英語] English	—————	10
[フランス語] Français	—————	12
[ドイツ語] Deutsch	—————	16
[韓国語・朝鮮語] 한국어 · 조선어	—————	18
[ロシア語] Русский язык	—————	20
[スペイン語] Español	—————	22
[アイヌ語] アイヌ イタク	—————	24

●水平社宣言・綱領の翻訳にあたって

Acknowledgements 25

イラスト 黒田征太郎

Illustrated by KURODA Seitaro

発刊にあたって

1922年3月3日、日本の京都において、被差別部落民に対する差別の撤廃を求めて全国水平社が創立された。この大会で採択された宣言は、日本における最初の人権宣言とも評価され、綱領とともに、その後各方面で大きな影響を与え続けている。

新しく迎えた21世紀を人権が尊重された世紀とするために、今なおこの宣言と綱領から学ぶことは少なくない。全国水平社創立80周年を記念し、宣言と綱領を8つの言語に翻訳し、広く世界に紹介するものである。

2002年3月3日
社団法人 部落解放・人権研究所

发刊词

1922年3月3日，旨在废除部落民歧视的全国水平社在日本京都成立。在成立大会上通过的宣言，被公认为日本最早的人权宣言，并与其纲领一道，对以后的各个方面产生了巨大的影响。

为了让新的21世纪成为尊重人权的世纪，时至今日，这个宣言和纲领仍将给我们许多的启示。为了纪念全国水平社成立80周年，我们特将宣言和纲领翻译成八国语言，向世界广为宣传。

2002年3月3日
社团法人 部落解放・人权研究所

Preface

The Zenkoku Suiheisha (National Levelers' Association) was founded in Kyoto, Japan, on the 3rd of March 1922, in order to work towards eradicating discrimination against Buraku people. The Declaration that was adopted during the founding assembly is regarded as Japan's first declaration of human rights. Since its adoption, the Declaration, together with its associated General Principles, has continued to exert an enormous influence in many different areas.

Even now we can still learn much from the Suiheisha Declaration and General Principles, especially as we work towards making the twenty-first century a century where human rights will be respected. We have translated the Declaration and General Principles into eight languages to commemorate the 80th anniversary of the founding of the National Levelers' Association. We hope that they can now be shared widely throughout the world.

March 3, 2002
Buraku Liberation and Human Rights Research Institute

Preface

La Zenkoku Suihei Sha (l'Association nationale des Niveleurs) fut fondée à Kyoto, au Japon, le 3 mars 1922 pour œuvrer à l'abolition des discriminations visant les gens des Buraku (les hameaux discriminés). Le manifeste qui fut adopté lors de l'assemblée constitutive est considéré comme la première déclaration japonaise des Droits de l'Homme. Depuis sa proclamation, il n'a cessé d'avoir, avec ses Principes généraux, une influence considérable dans tous les domaines.

Si nous voulons faire de ce 21ème siècle qui vient de commencer, un siècle respectant les droits humains, nous avons encore maintenant beaucoup à apprendre de cette Déclaration et de ses Principes généraux. Pour célébrer 80ème anniversaire de la fondation de l'Association nationale des Niveleurs, nous avons donc traduit la Déclaration et les Principes généraux en huit langues afin de pouvoir les faire connaître plus largement dans le monde entier.

Le 3 mars 2002
Institut de Recherches sur la Libération des Buraku et les Droits Humains

Geleitworte

Mit dem Wunsch, die gesellschaftlich Benachteiligung der diskriminierten Burakumin zu beseitigen, wurde in der Stadt Kyôto am 3. März 1922 die Nationale Suiheisha gegründet. Die in der Gründungsversammlung beschlossene Deklaration wird als die erste Menschenrechtserklärung Japans bezeichnet und übt gemeinsam mit den gleichzeitig ratifizierten Programmpunkten auch heute noch nachwirkende und unübersehbare Einflüsse aus.

Bei der Entwicklung des 21. Jahrhunderts zu einem Jahrhundert, in dem die Menschenrechte höchste Beachtung finden, sind die Inhalte dieser Deklaration und der Programmpunkte sicherlich nicht unwesentlich. Zum 80. Jubiläum der Gründung der Nationalen Suiheisha haben wir die Inhalte der Deklaration und die Programmpunkte in acht verschiedene Sprachen übersetzt und präsentieren sie somit der Weltöffentlichkeit.

3. März 2002
Institut für Buraku-Befreiung und Menschenrechte

발간에 부쳐

1922년 3월 3일, 일본 교토(京都)에서 피차별 부락민에 대한 차별철폐를 요구하는 전국수평사가 창립되었다. 그 대회에서 채택된 선언은 일본 최초의 인권선언으로 평가 받으며 강령과 함께 그 후 각 방면에 지속적이고도 커다란 영향을 주고 있다.

세롭게 맞이한 21세기를 인권이 존중되는 세기로 만들고자 하는 오늘날 이 선언과 강령을 통해 배울 만한 것이 적지 않다. 전국수평사 창립 80주년을 기념하여 선언과 강령을 8개 언어로 번역해 널리 세계에 소개하는 바이다.

2002년 3월 3일
사단법인 부락해방·인권연구소

Предисловие

Дзэнкоку Суйхэйся – Общенациональное общество уравнительного движения было образовано в городе Киото 3 марта 1922 года с целью ликвидации дискриминации жителей Бураку. Принятые на учредительном собрании Общества Декларация и Основные принципы считаются первой в Японии декларацией о правах человека и продолжают оказывать большое влияние на различные стороны жизни японского общества.

И в наши дни Декларация и Основные принципы являются весьма поучительными и могут способствовать деятельности, направленной на превращение нового ХХI века в век уважения прав человека. Отмечая 80-ю годовщину образования Общенационального общества уравнительного движения, мы сочли важным опубликовать Декларацию и Основные принципы на восьми языках с тем, чтобы ознакомить с их содержанием как можно большее число людей во всем мире.

03 марта 2002 года
Институт освобождения Бураку и прав человека

Prefacio

El Zenkoku Suiheisha (la Asociación Nacional para la Igualdad) fue fundado en la ciudad de Kioto, Japón, el 3 de marzo de 1922, con el objetivo de trabajar por la erradicación de la discriminación hacia las personas de Buraku. La Declaración, aprobada durante la Asamblea de su fundación, es considerada como el primer pronunciamiento japonés sobre los Derechos Humanos. Su adopción, junto con los Principios Generales, han tenido y siguen teniendo una gran influencia en diversas áreas.

Aún hoy día, es mucho lo que puede aprenderse de ellos, particularmente cuando se trabaja para transformar el siglo XXI como un siglo de mayores progresos en cuanto al cumplimiento de los Derechos Humanos. En conmemoración del 80º Aniversario de la fundación del Zenkoku Suiheisha, hemos traducido la Declaración y los Principios Generales en 8 lenguas. De esta forma deseamos compartirlos más ampliamente con la comunidad internacional.

3 de marzo del 2002
El Instituto de Liberación de Buraku y de Investigación de Derechos Humanos

せん
宣

げん
言

ぜん こく さん ざい わ とく しゅ ぶ らく みん だん けつ
全國に散在する吾が特殊部落民よ團結せよ。

なが あいだ いじ き さとう だい か こ ほん せい き かん しゅ しづ はう ほう
長い間虐められて來た兄弟よ、過去半世紀間に種々なる方法と、
おおむ ひと
多くの人々とによつてなされた吾等の爲めの運動が、何等の有難い
こう か じた じ じつ うれ うん うん なん うん うん うん うん うん
効果を齎らさなかつた事實は、夫等のすべてが吾々によつて、又他
ひと びと づれ にん げん ばう とく ばむ はう きう だい だ うら
の人々によつて毎に人間を冒瀆されてゐた罰であつたのだ。そして
ら にん げん いたわ ごと うん どう はは きう だい だ うら
これ等の人間を勵るかの如き運動は、かへつて多くの兄弟を堕落さ
こと おも この さい ねれ うら うら にん げん せん けい こと うづか
せた事を想へば、此際吾等の中より人間を尊敬する事によつて自ら
かい ほう もの しゅう だん うん どう おこ ひし ひつ せん
解放せんとする者の集團運動を起せるは、寧ろ必然である。

きう だい いれ いれ そ せん じ う びとう どう かつ こう しゃ じつ こう しゃ
兄弟よ、吾々の祖先は自由、平等の渴仰者であり、實行者であ
つた。陋劣なる階級政策の犠牲者であり男らしき産業的殉教者で
あつたのだ。ケモノの皮剥ぐ報酬として、生々しき人間の皮を剥取
かれ、ケモノの心臓を裂く代價として、暖い人間の心臓を引裂かれ、
そこへ下らない嘲笑の唾まで吐きかけられた呪はれの夜の悪夢の
うちにも、なほ誇り得る人間の血は、涸れずにあつた。そうだ、そ
して吾々は、この血を享けて人間が神にかわらうとする時代にあ
たのだ。犠牲者がその烙印を投げ返す時が來たのだ。殉教者が、そ
の荆冠を祝福される時が來たのだ。

吾々がエタである事を誇り得る時が來たのだ。

吾々は、かならず卑屈なる言葉と怯懦なる行爲によつて、祖先を
辱しめ、人間を冒瀆してはならぬ。そうして人の世の冷たさが、何ん
なに冷たいか、人間を勵はる事が何んであるかをよく知つてゐる吾
々は、心から人生の熱と光を願求禮讚するものである。

水平社は、かくして生れた。

人の世に熱あれ、人間に光あれ。

たい しおう じゅう いら ねん さん がつ
大正十一年三月

すい へい しや
水平社

こう 綱りよう 領

とく しゅ ぶ らく みん ぶ らく みん じ しん こう どう
一、特殊部落民は部落民自身の行動によつて

ぜつ たい かい ほう き
絶対の解放を期す

われ われ とく しゅ ぶ らく みん ぜつ たい けい ざい じ ゆう しょく
一、吾々特殊部落民は絶対に經濟の自由と職

ぎょう じ ゆう しゃ かい よう きゅう もつ かく とく き
業の自由を社會に要求し以て獲得を期す

われ ら にん げん せい げん り かく せい じん るい さい こう
一、吾等は人間性の原理に覺醒し人類最高の

かん せい むか とつ しん
完成に向つて突進す

註

【1】特殊部落民

「特殊部落民」は日本語の原意としては「特殊な集落の住民」となるが、1900年頃から行政関係者によって、一般民衆と比べて少しむべき奇異な存在であるという見方を強調するために被差別部落の人びとに対して差別的に用いられた。しかし全国水平社創立者たちは、差別的な意味での「特殊部落民」の使用については抗議したが、一方では、部落民自らが「特殊部落民」であることを卑下するのではなく、誇り得るべきであるという意味で、あえて自らに対して「特殊部落民」を使った。

【2】兄弟

部落差別に苦しんでいるのは部落の男女であったから、本来「兄弟姉妹」となるべきであるが、当時の日本社会においては女性に対する差別觀は強く、全国水平社創立者たちも主として部落の男性に対して呼びかけただけであったので「兄弟」となった。

【3】運動

宣言でいう「運動」とは全国水平社創立以前の部落の衛生や風俗などを改善しようとした部落改善運動や、社会に対して差別の反省と部落に同情を求めた融和運動をさすが、これらはいずれも恩恵的・慈恵的であるとして全国水平社創立者たちから厳しい批判を浴びた。

【4】男らしき

「男らしき」は部落の産業的役割を強調するために用いられた形容詞的表現であるが、この表現の裏には男性は女性よりも優れているという当時の日本社会の女性に対する認識があった。

【5】そうだ、そして吾々は、……時代にあつたのだ。

これまで神は絶対的な存在として人間によって尊敬・崇拜の対象とされてきたが、これからはその神に代わって人間自体が無限の可能性を持った尊敬すべき存在とされる時代になったという意味。

【6】エタ

「エタ」の原意は穢れが多いという極めて差別的な用語であり、近世の身分制社会では一般的に用いられ、近代になっても被差別部落の人びとに対してしばしば使われた。しかし全国水平社創立者たちは、「エタ」という用語を差別的な意味で使った社会に対しては厳しく抗議したが、部落の仲間に 대해서は「エタ」であることを誇り得るべきであると主張した。

【7】水平社

「水平社」の水平とは差別のない平らな社会を実現しようという意味から用いられ、そのための結社であるとして水平社と名付けられた。当時においては、水平社とは自主的部落解放運動団体の代名詞であった。そして、それぞれのレベルに応じて、頭に全国、府県名、地域名をつけて言い表した。

【8】大正十一年三月

本来は、天皇制を前提とした日本独自の年代表記である元号を用いた「大正十一年」ではなく、反天皇制の立場から「1922年」とすべきである。ここでは歴史的意味を尊重し、年代表記を含め宣言・綱領全文を原文どおりとしている。

宣　　言

全国各地的特殊部落民们, 让我们团结起来吧!

长期以来遭受虐待的兄弟们,¹²¹过去半个世纪以来,许多人以各种各样的方法为我们所进行的运动,¹²²并没有给我们带来任何的好处,相反,乃是我等以及他人每每亵渎人类的惩罚。这些使人颓废的运动,反而使我们的许多兄弟堕落。想到此,由我们自己发起尊敬人类自我解放的群众运动就成为必然。

兄弟们! 我们的祖先自由平等的渴望者、实行者,但又是卑劣的阶级政策的牺牲者、所谓男子汉式产业的殉教者。剥兽皮的报酬,¹²³就是活生生的人皮被剥,撕兽心的代价,就是火热的人心被撕。即使身上被吐上嘲笑的唾沫,即使在遭受诅咒的恶梦里,我们的血也没有干竭。是的,有血有肉的人将替代神,我们正处在这样的时代!¹²⁴牺牲者返还烙印的时候到了,殉教者祝福其荆冠的时候到了。

我们以“穆多”¹²⁵为骄傲的时候到了。

我们决不以卑下的语言和怯懦的行为侮辱祖先,亵渎人类。我们深知人世的冷酷,知晓何为使人颓废,我们真心祈望和礼赞人生的光和热。

水平社就这样诞生了。¹²⁶

给人世以热,给人类以光!

1922年3月3日
¹²⁷

水　平　社

纲 领

- 一，特殊部落民要以部落民自身的行动，争取彻底的解放！
- 一，我们特殊部落民向社会要求获得绝对的经济自由和职业自由！
- 一，我们要认知人性的原理，朝着人类最高的境界迈进！

关于翻译全国水平社成立宣言的注解

【1】特殊部落民

“特殊部落民”口语的原意是“特殊集落的住民”，1900年左右，为了强调部落民是比一般民众更卑贱的特殊存在，行政当局把它作为对部落进行歧视的用语而使用。但是，全国水平社的创立者们则认为，部落民并不以自己是“特殊部落民”而感自卑，反而以此为骄傲，因此特意使用“特殊部落民”这个称呼。

【2】兄弟

遭受部落歧视之苦的乃是部落的男女，本应该为兄弟姐妹才是，但由于当时日本社会对妇女人权的认识较低，全国水平社的创立者们主要对部落的男性进行呼吁，所以称作“兄弟”。

【3】运动

所谓“运动”，是指全国水平社成立以前为改善部落的卫生和风俗所进行的部落改善运动和向社会求得对部落同情的融合运动。这些运动都被全国水平社的创立者们看作是施舍仁慈和恩惠的运动，而受到严厉的批判。

【4】男子汉式

“男子汉式”是为了显示部落产业之作用而使用的表述，然而这个表现的背后则掩藏着当时日本社会对女性的认识—男性优于女性。

【5】是的，……我们正处在这样的时代！

过去，神是至高无上的存在而成为人们崇拜的对象，然而，从今以后，拥有无限可能性的人将替代神，成为值得尊敬的存在，今后的时代将是这样的时代。

【6】秽多

“秽多”的原意是指污垢多，是极端歧视性的用语。在近世的身份制社会，曾作为一般用语使用，但到了近代主要针对部落民使用。全国水平社的创立者们对使用这样歧视性语言的社会进行了严重的抗议，同时也主张部落的同志应以此为骄傲。

【7】水平社

“水平社”的水平意指要实现没有歧视的平等社会，因此在结社时就取名为“水平社”。当时，水平社是自主部落解放运动团体的代名词。同时，还根据各自的范围冠上全国、府县名以及地域名。

【8】1922年3月3日

原文使用的是以天皇制为本的日本独特的年代标记元号“大正”，即“大正十一年”，原文只有三月没有三日，按照国际惯例标记为1922年，考虑到成立日的重要性，加上三日。

Declaration

Tokushu Burakumin throughout the country: Unite!

Long-suffering brothers! Over the past half century, the movements^[12] on our behalf by so many people and in such varied ways have yielded no appreciable results. This failure is the punishment we have incurred for permitting ourselves as well as others to debase our own human dignity. Previous movements, though seemingly motivated by compassion, actually corrupted many of our brothers. Thus, it is imperative that we now organize a new collective movement to emancipate ourselves by promoting respect for human dignity.

Brothers! Our ancestors pursued and practiced freedom and equality. They were the victims of base, contemptible class policies and they were the manly^[13] martyrs of industry. As a reward for skinning animals, they were stripped of their own living flesh; in return for tearing out the hearts of animals, their own warm human hearts were ripped apart. They were even spat upon with ridicule. Yet, all through these cursed nightmares, their human pride ran deep in their blood. Now, the time has come when we human beings, pulsing with this blood, are soon to regain our divine dignity.^[14] The time has come for the victims to throw off their stigma. The time has come for the blessing of the martyrs' crown of thorns.

The time has come when we can be proud of being Eta.^[15]

We must never again shame our ancestors and profane humanity through servile words and cowardly deeds. We, who know just how cold human society can be, who know what it is to be pitied, do fervently seek and adore the warmth and light of human life from deep within our hearts.

Thus is the Suiheisha born.^[16]

Let there be warmth in human society, let there be light in all human beings.

March 3, 1922^[17]

The Suiheisha

General Principles

1. Tokushu Burakumin shall achieve complete liberation through our own actions.
1. We, Tokushu Burakumin, are determined to achieve our demands for complete freedom in undertaking economic activities and in choosing our occupations.
1. We shall awaken to the fundamentals of human nature and march toward highest human perfection.

Notes

【 1 】 Tokushu Burakumin

In Japanese ‘buraku’ means a village/community and ‘min’ means people. ‘Tokushu’ means special. “Tokushu Burakumin” therefore means “people of a special community.” From around 1900, the term came to be used deliberately by the government in a discriminatory fashion to emphasize the perception held by non-Buraku people that Buraku people are peculiar and lowly in comparison to the general populous. The founders of the National Levelers’ Association, themselves Buraku people, intentionally used “Tokushu Burakumin” with pride rather than with self-deprecation.

【 2 】 brothers

Those suffering from Buraku discrimination were both men and women so the term should be “brothers and sisters.” Yet the awareness of rights for women was very low in Japanese society at this time, and likewise for the founders of the National Levelers’ Association in addressing themselves primarily to Buraku men.

【 3 】 movements

“Movements” refers to ‘kaizen undo’ (improvement movements) and ‘yuwa undo’ (reconciliation movements) undertaken before the founding of the National Levelers’ Association. The former were organized to improve community sanitation conditions and social habits, such as behavior and language usage of Buraku people, and the latter were organized in order to try to achieve societal integration for, and reconciliation with, Buraku people. The founders of the National Levelers’ Association severely criticized the nature of both such movements, because they sensed these movements were motivated by benevolent charity instead of an actual desire to promote the attainment of equality.

【 4 】 manly

Although “manly” is used to emphasize the industrial role played by the Buraku, behind its usage lies the understanding in Japanese society at the time which believed men were superior to women.

【 5 】 “We human beings ... are soon to regain our divine dignity.”

Until this time, some god-like transcendent power was thought to be absolute and the object of worship for humans, but from this time forth, the time has come for humans themselves to replace such divine power, to be respected as beings who have unlimited potential.

【 6 】 Eta

This highly discriminatory term, meaning full of filth, came to be commonly used in the caste-like class system of Japan’s Edo period (AD1603-1867), and was continued to be used into modern times with regard to Buraku people. The founders of the National Levelers’ Association protested strongly against its use in society; however, to fellow Buraku people, they emphasized that being Eta was something to be proud of.

【 7 】 Suiheisha

The word ‘suihei,’ meaning horizontal or level, is employed as a call to realize a society that is uniformly even and without discrimination. As an association for such aims, the name Suiheisha (‘sha’ means association) was used. At the time, the term was synonymous with autonomous Buraku liberation organizations. “National,” prefectoral or district proper names, were placed at the front of the term as appropriate.

【 8 】 March 3, 1922

The original text indicates the founding date only as “March, Taisho 11.” Taisho (AD1912-1926) was the era named after the then-Emperor Taisho following the Japanese tradition of naming eras based on the emperor system. In alignment with the international custom of using Christian dating, we have chosen in this translation “1922” and included the date when the Declaration was made, March 3, in order to emphasize the importance of the actual founding of the National Levelers’ Association.

La Déclaration

Tokushu Burakumin dispersés dans notre pays, unissons-nous!
[1]

Frères qui avez souffert si longtemps ! Les mouvements qui ont été menés tout au long du demi-siècle écoulé pour notre bénéfice par de très nombreuses personnes usant de moyens divers et variés n'ont apporté aucun résultat appréciable. Cet échec est la punition que nous avons méritée pour avoir permis, pour nous et pour d'autres, la profanation de notre dignité d'humains. Et tout en ayant été, semble-t-il, motivés par la compassion, ces mouvements ont, en fait, corrompu nombre de nos frères. Voilà pourquoi il est impératif que nous organisions maintenant un nouveau mouvement collectif entre nous tous, pour nous libérer nous-mêmes en mettant en exergue le respect de la dignité humaine.

Frères ! Nos ancêtres vénéraient et pratiquaient la liberté et l'égalité. Ils furent les victimes d'une politique de classe méprisable et les martyrs virils de l'industrie. En guise de récompense pour dépliauter les animaux, ils furent dépouillés de leur propre chair palpitante ; en guise de salaire pour arracher le cœur des animaux, leurs propres cœurs humains et chauds furent mis en pièces ; on alla jusqu'à leur cracher dessus avec des sourires méprisants. Cependant, même en proie à ces cauchemars maudits, leur fierté d'être humain coulait dans leurs veines. Et voilà. Le temps est venu pour nous, humains recueillant leur sang, de récupérer notre essence divine. Le temps est venu pour les victimes de rejeter leurs stigmates. Le temps est venu pour les martyrs dont les couronnes d'épine seront bénies.

Le temps est venu où nous pouvons être fiers d'être des Eta.

Nous ne devons jamais plus faire honte à nos ancêtres ni profaner l'humain en usant de paroles serviles ou en agissant de manière timorée. Nous qui savons combien le monde des hommes peut être froid, et qui savons comment on peut être détruit, nous cherchons avec ferveur et vénérons de tout notre cœur la chaleur et la lumière de la vie humaine.

Nous proclamons la naissance de la Suiheisha.

Que la chaleur soit dans la société humaine, que la lumière soit chez les humains.

Le 3 mars 1922
[8]

La Suiheisha

Les Principes Généraux

1. C'est en menant eux-mêmes leurs propres actions que les Tokushu burakumin atteindront leur libération complète.
1. Nous, Tokushu Burakumin, réclamerons à la société et obtiendrons d'elle absolument la liberté économique et la liberté professionnelle.
1. Nous nous éveillerons aux principes de la nature humaine et nous élancerons vers la plus haute perfection de l'humanité.

NOTES

【 1 】 Tokushu Burakumin

En japonais, "buraku" signifie "village, hameau, communauté" et "min" signifie "gens". "Tokushu" signifie "spécial". L'expression Tokushu Burakumin signifie donc "gens d'une communauté spéciale". A partir de 1900 environ, ce terme fut délibérément utilisé par le gouvernement de façon discriminatoire pour accentuer la perception des non-Burakumin vis-à-vis des Burakumin qu'ils considéraient comme spéciaux et inférieurs par rapport à la population générale. Les fondateurs de l'Association nationale des Niveleurs, eux-mêmes Burakumin, utilisèrent intentionnellement le terme "Tokushu Burakumin" avec fierté plutôt que par auto-dérision.

【 2 】 Frères

La discrimination contre les Buraku frappait autant les femmes que les hommes et le terme aurait dû être "Frères et Sœurs". Cependant la conscience des droits des femmes était très faible dans la société japonaise de cette époque et c'est la raison pour laquelle les fondateurs de l'Association nationale des Niveleurs s'adressèrent, en premier lieu, aux hommes.

【 3 】 Les mouvements

Le terme "les mouvements" se réfère aux "kaizen undo" (mouvements pour l'amélioration) et aux "yuwa undo" (mouvements pour l'harmonisation) menés antérieurement à la fondation de l'Association nationale des Niveleurs. Les premiers avaient pour objectif d'améliorer les conditions sanitaires des communautés et les attitudes sociales, comme par exemple le comportement ou l'usage du langage, des Burakumin. Les derniers visaient à réaliser l'intégration sociale des Burakumin et à les réconcilier avec la société. Les fondateurs de l'Association nationale des Niveleurs critiquèrent sévèrement la nature de ces deux types de mouvements, car ils sentirent qu'ils étaient motivés par une charité bienveillante au lieu de l'être par un réel désir d'atteindre l'égalité pour tous.

【 4 】 Viril

Bien que "viril" ait été utilisé pour accentuer le rôle joué par les Burakumin dans l'industrie, on trouve derrière cet adjectif l'opinion répandue dans la société japonaise d'alors, selon laquelle les hommes étaient supérieurs aux femmes.

【 5 】 "Nous, humains....récupérer notre essence divine"

Jusqu'à cette époque, on considérait que les dieux représentaient un pouvoir transcendental qui devait être vénéré par les humains mais à dater de ce jour, c'est aux humains eux-mêmes à remplacer les dieux et à être respectés comme des êtres aux pouvoirs illimités.

【 6 】 Eta

Ce terme extrêmement discriminatoire signifiant "monceau de saleté" a été utilisé de manière ordinaire dans le système des classes de l'époque d'Edo (1603-1867) et a continué d'être utilisé à l'époque moderne envers les Burakumin. Les fondateurs de l'Association nationale des Niveleurs protestèrent vigoureusement contre cet usage par la société tout en insistant auprès de leurs frères Burakumin sur la fierté d'être des Eta.

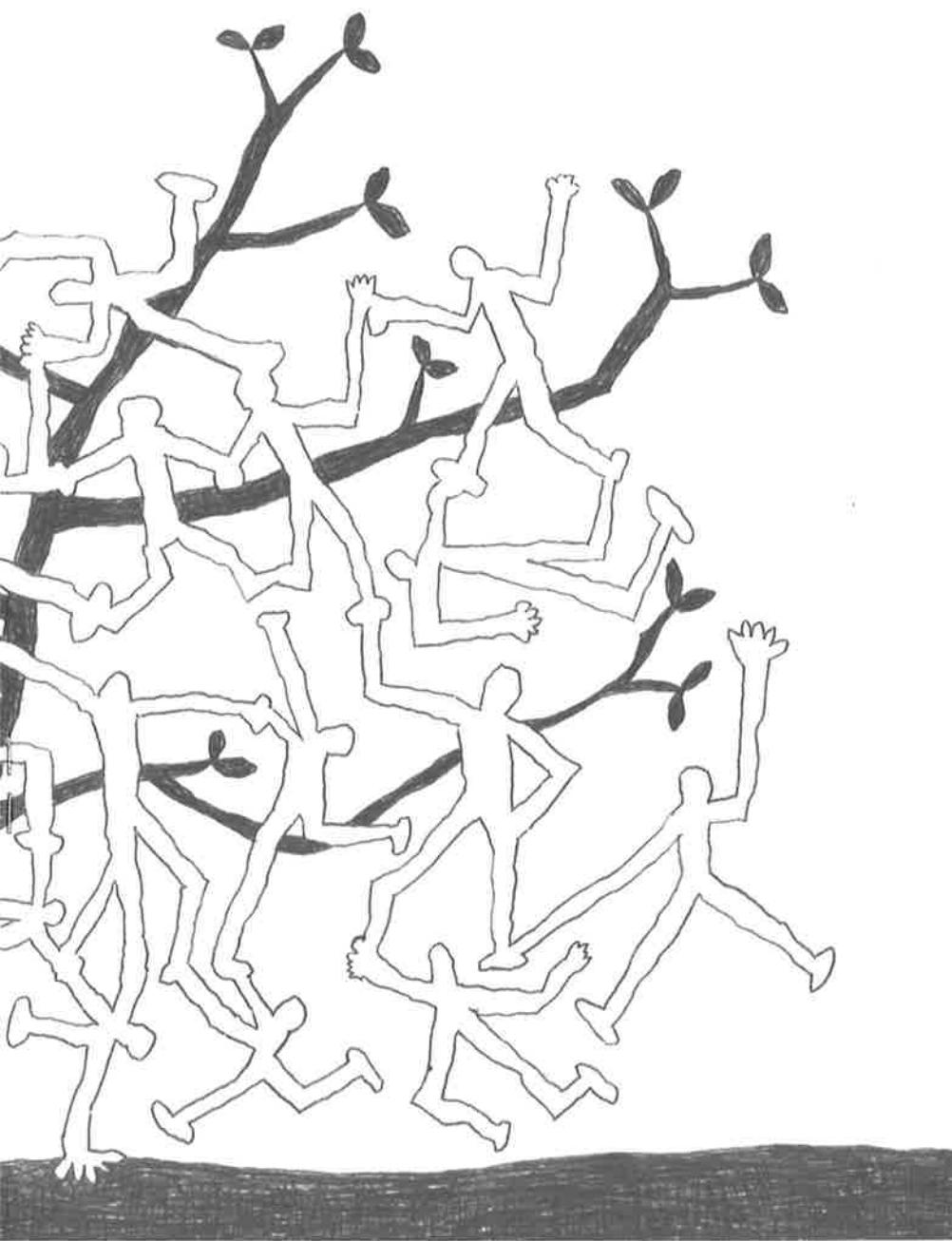
【 7 】 Suiheisha

Le mot "suhei" signifie "horizon, niveau". Il est ici utilisé pour inciter à la réalisation d'une société qui serait uniformément "à niveau", sans discrimination. C'est pour insister sur cet objectif que ce nom fut choisi, "sha" signifiant "association". A cette époque, le terme était synonyme d'organisations de libération des Burakumin. Les différentes associations étaient précédées des termes appropriés "nationale", "départementale" ou plus locale.

【 8 】 Le 3 mars 1922

Le texte original ne mentionne que "mars, an 11 de l'ère Taisho". L'ère Taisho (1912-1926) a correspondu à la durée du règne de l'empereur Taisho, selon la tradition historique japonaise qui, suivant le système impérial, compte les années à partir de l'intronisation d'un nouvel empereur jusqu'à sa mort. En conformité avec la coutume internationale de datation chrétienne, nous avons choisi de mettre dans cette traduction "1922" et de faire figurer la date où ce texte fut adopté, le 3 mars, afin de souligner l'importance de la fondation de l'Association nationale des Niveleurs.





Deklaration

Tokushu Burakumin⁽¹⁾, im ganzen Land, vereinigt Euch!

Ihr viele Jahre lang gequälten Brüder!⁽²⁾ Die Tatsache, dass die im vergangenen halben Jahrhundert in unterschiedlicher Weise und von vielen Leuten unsertwegen unternommenen Bewegungen⁽³⁾ keine dankenswerten Erfolge gezeigt haben, ist wohl die Folge davon, dass nicht nur Andere, sonst auch wir selbst uns als Menschen stets gedemütigt haben. Wen man bedenkt, dass diese Bewegungen unter dem Deckmantel von Achtung vor der Menschenwürde eher zum Absinken vieler unserer Brüder geführt haben, ist es jetzt unumgänglich unsererseits eine Massenbewegung ins Leben zu rufen, um uns durch Achtung der Menschenwürde selbst zu befreien.

Brüder! Unsere Vorfahren haben Freiheit und Gleichberechtigung geachtet und verwirklicht. Sie waren Opfer hinterhältiger Klassenpolitik und mannhafte⁽⁴⁾ Blutzeugen der Industrie. Zum Lohn für das Abdecken von Tierhäuten hat man ihre eigenen Häute geschunden, zum Lohn für das Zerteilen von Tierherzen, hat man ihre eigenen warmen Herzen in Stücke gerissen. Dazu hat man sie noch bespuckt und mit schmutzigem Hohngelächter geschnäht. Diesen fluchbeladenen Alpträumen zum Trotz ist ihr menschliches Blut, auf das sie stolz sein können, nicht vertrocknet. Jawohl, nun ist eine Zeit angebrochen, da Menschen unseres Blutes göttlich vollkommen werden.⁽⁵⁾ Für die Opfer ist es Zeit die Stigmata von sich zu schleudern. Es ist Zeit, die Dornenkrone der Märtyrer zu segnen.

Die Zeit ist gekommen, dass wir stolz darauf sind Eta zu sein.⁽⁶⁾

Wir dürfen unsere Vorfahren keineswegs durch unterwürfige Worte und feige Handlungen beschämen und die Menschheit entwürdigen. Wir, die wir nur zu gut wissen wie eiskalt die Welt der Menschen ist und was es heisst, einen Menschen zu achten, wünschen, fordern und verehren aus ganzem Herzen die Wärme und das Licht dieser Welt.

Daraus ist die Suiheisha geboren.⁽⁷⁾

Es sei Wärme in der Menschenwelt, es sei Licht für die Menschheit.

3. März 1922⁽⁸⁾

Suiheisha

Programmpunkte

1. Die Tokushu Burakumin werden durch ihre eigenen Anstrengungen vollkommende Befreiung erreichen.
1. Wir Tokushu Burakumin fordern von der Gesellschaft wirtschaftliche und berufliche Freiheit und werden sie erlangen.
1. Wir rütteln an den Grundprinzipien der Menschheit und marschieren in Richtung auf menschliche Vervollkommenung.

Anmerkungen

【 1 】 Tokushu Burakumin

Wörtliche Bedeutung dieses Terminus ist "Einwohner von Sondersiedlungen". Ab etwa 1900 nahm dieses Wort zunehmend eine diskriminierende Bedeutung an und entwickelte sich zum Begriff des Abstossenden schlechthin. Mit diesem Ausdruck sollte der Unterschied zwischen der Mehrheitsbevölkerung und den gesellschaftlich diskriminierten Burakumin, die man als seltsame Existenz eistufte, hervorgestrichen werden. Die Gründer der Nationalen Suiheisha bezeichneten sich jedoch bewusst als "Tokushu Burakumin", nicht in Unterwürfigkeit, sondern aus Stolz auf diesen Namen.

【 2 】 Brüder

Da die Burakumin beider Geschlechter gleichermaßen gesellschaftlicher Diskriminierung ausgesetzt waren, müsste es an dieser Stelle eigentlich "Brüder und Schwestern" heißen. In der damaligen japanischen Gesellschaft war jedoch das Bewusstsein für Menschenrechte von Frauen kaum entwickelt. Die Gründer der Nationalen Suiheisha richteten ihren Appell daher auch vor allem an männlichen Burakumin.

【 3 】 Bewegungen

Unter "Bewegungen" sind vor allem vor der Gründung der Nationalen Suiheisha bestehende diverse Aktivitäten zu verstehen. So zum Beispiel die Reformbewegungen (kaizen undō), die vor allem eine Verbesserung der sanitären oder sittlichen Verhältnisse in den Buraku-Siedlungen anstrebten, oder Versöhnungsbewegungen (yūwa undō), die es verstandenen Burakumin entgegengebrachtes Mitgefühl zu propagieren. Diese Bewegungen hatten einen deutlichen Anstrich von Gönnerum und Unaufrichtigkeit und wurden deshalb von den Gründern der Nationalen Suiheisha vehement abgelehnt.

【 4 】 mannhaft

Der Begriff "mannhaft" wurde gewählt um die industrielle Bedeutung (z.B. Lederindustrie) der Buraku-Siedlungen zu unterstreichen. Dahinter verbirgt sich jedoch die Auffassung, dass die wirtschaftliche Tätigkeit des Mannes jener der Frauen weit überlegen ist.

【 5 】 "göttlich ..."

Das "Göttliche" wurde bislang im Sinne einer absoluten Existenz verstanden, die für die Menschheit Gegenstand der Anbetung ist. Nunmehr aber sollte eine Zeit kommen, in der der Mensch als Wesen mit unbegrenzten Möglichkeiten geachtet werden sollte. Darin liegt die Bedeutung dieser Stelle.

【 6 】 Eta

Die Bedeutung des Wortes "Eta" ist äußerst abwertend und bedeutet wörtlich "voll Dreck". In der ständisch-hierarchischen Gesellschaft der Neuzeit bezeichnete dieses Wort einen Stand, wurde jedoch auch in der Moderne als diskriminierende Bezeichnung für Burakumin verwendet. Die Gründer der Nationalen Suiheisha wollten durch bewusste Verwendung dieser Bezeichnung eine Gesellschaft anprangern, die dieses abwertende Wort weiterverwendet. Gleichzeitig soll sie die gleichgesintneten Burakumin ermahnen, mit Stolz Eta zu sein.

【 7 】 Suiheisha

Die Bedeutung von "suihei" ist waagercht, "sha" bezeichnet die Organisation. Suiheisha war demnach eine Vereinigung mit dem Ziel eine gleichberechtigte Gesellschaft ohne Diskriminierung zu schaffen. Suiheisha ist der Name der eigenständigen Befreiungsbewegung der Burakumin. Neben der Nationalen Suiheisha gab es lokale Suiheisha, sowohl auf Präfekturebene, als auch in einzelnen Buraku-Siedlungen.

【 8 】 3. März 1922

Das Original trägt die Jahreszahl "Taishō 11". Es handelt sich dabei um eine in Japan übliche Zeitrechnung (gengō-Zeitrechnung), die sich nach einer Ärabezeichnung und dem jeweiligen Regierungsjahr eines Kaisers richtet und somit mit dem Kaisersystem engstens verknüpft ist. Im Original wird lediglich der Monat angegeben. Wir haben die Jahreszahl auf das in der internationalen Gesellschaft übliche umgeschrieben und den Tag hinzugefügt, weil uns der Gründungstag der Nationalen Suiheisha wichtig erscheint.

선언

전국에 산재하는 우리 특수부락민이여, 단결하라.

오랜 세월 학대 받은 형제들이여, 과거 반세기 동안 우리를 위해 많은 사람들이 온갖 방법으로 전개한 운동이 이렇다 할 성과를 조금도 거두지 못 한 것은 우리와 사람들이 그 모든 운동을 통해 언제나 인간을 모독했기 때문에 내려진 벌이다. 그리고 인간을 망치는 것과도 같았던 이들 운동이 도리어 많은 형제를 타락시켰음을 상기한다면, 지금 우리 가운데서 인간에 대한 존경을 바탕으로 스스로를 해방시키기 위한 집단운동이 일어나게 된 것은 오히려 필연적이다.

형제여, 우리의 선조는 자유와 평등을 갈망하고 실행하는 사람들이었다. 비열한 계급정책의 희생자이자 남자다운 산업적 순교자였다. 짐승의 가죽을 벗기는 보수로 우리 인간의 생가죽은 벗겨지고, 짐승의 심장을 가르는 대가로 인간의 따뜻한 심장이 찢기며, 하찮게 뱉어내는 조소의 침으로 얼룩져야 했던 저주의 밤 그 악몽 가운데서도, 당당할 수 있는 인간의 피는 마르지 않았다. 그렇다, 우리는 그 피를 이어받아 인간이 신을 대신하는 시대를 만난 것이다. 희생자가 스스로의 낙인을 떨쳐낼 때가 왔다. 순교자가 스스로의 가시관을 축복할 때가 왔다.

우리가 에타라는 사실에 궁지를 느낄 수 있는 때가 온 것이다.

우리는 결코 비굴한 말과 겁먹은 행위로 선조를 욕되게 하거나 인간을 모독해서는 안 된다. 인간 세상이 냉혹할 때 그것이 얼마나 차가운지, 인간을 망치는 일이 무엇인지 잘 아는 우리는 여기 인생의 뜨거운 힘과 빛을 진심으로 갈구하고 예찬하는 바이다.

그리하여 이 자리에 수평사는 탄생했다.

인간 세상에 열정 있으라, 인간에게 빛이 있으라.

1922년 3월 3일

수평사

강령

하나, 특수부락민은 부락민 스스로의 행동을 통해 완전한 해방을 쟁취한다.

하나, 우리 특수부락민은 경제활동의 자유와 직업의 자유를 사회에 요구하며 이를 기필코 획득한다.

하나, 우리는 인간성의 원리를 깨달아 인류 최고의 완성을 향해 매진한다.

전국수평사 창립선언 번역에 대한 각주

【1】 특수부락민

'특수부락민'은 일본어 본뜻으로 보면 '특수한 촌락의 주민'이지만, 1900년경부터 일반민중보다 멀시 받아야 할 기이한 존재임을 강조하기 위해, 부락에 대해 차별적인 의미로 사용되었다. 그러나 전국수평사의 창립자들은 부락민 스스로가 '특수부락민'임을 비하하기 보다는 긍지를 가질 수 있어야 한다는 의미에서 자각적으로 '특수부락민'을 썼다.

【2】 형제

부락차별로 인해 고통 받는 것은 부락의 남녀 모두였으므로 본래대로라면 형제자매가 되어야 하나, 당시의 일본 사회에서는 여성인권에 대한 인식이 약했고, 전국수평사 창립자들도 주로 부락 남성들에 대한 호소에 그쳤기 때문에 '형제'가 되었다.

【3】 운동

여기서의 '운동'이란 전국수평사 창립 이전의 운동을 말하는 것으로, 부락의 위생상태나 풍속을 개선하고자 한 부락개선운동과 부락에 대한 사회의 동정을 구한 융화운동을 가리키는데, 이는 모두 시혜적, 자혜적이라 하여 전국수평사 창립자들로부터 맹렬한 비판을 받았다.

【4】 남자다운

'남자다운'은 부락의 산업적 역할을 과시하기 위해 사용되었지만, 이 표현의 저변에는 남성이 여성보다 뛰어나다는 당시 일본사회의 여성인식이 깔려 있었다.

【5】 그렇다, 그리고 우리는 시대를 만난 것이다.

이제까지 신은 절대적 존재로서 인간에게 숭배의 대상이 되었지만, 이제부터는 그 신을 대신해 인간 자체가 무한한 가능성 to 지닌 존경해야 할 존재로 여겨지는 시대가 되었다는 의미.

【6】 에타

'에타'는 본래 심히 더럽혀져 있다는 뜻의 지극히 차별적인 용어로, 근세 신분제 사회에서 일반적으로 사용되었고, 근데에 들어서도 부락을 가리켜 사용되었다. 전국수평사 창립자들은 에타라는 용어를 쓰는 사회에 대해서는 엄중히 항의했지만, 부락의 동지에 대해서는 에타임을 자랑스러워 할 수 있어야 한다고 주장했다.

【7】 수평사

'수평사'의 수평은 차별 없는 수평적 사회를 실현하고자 하는 의미에서 사용되었고, 이를 위한 결사라 하여 수평사로 명명되었다. 수평사라 하면 당시에는 자주적 부락 해방 운동단체의 대명사로 여겨졌다. 그리고, 각각의 조직 수준에 따라 말머리에 전국, 부(府) 현(懸)명, 지역명 등을 붙여 표현했다.

【8】 1922년3월3일

원문에서는 천황제를 기본으로 한 일본의 독자적 연대표 기인 연호 '대정(大正)'을 써 '대정11년'으로 표기했고, 날자를 쓰지 않은 채 3월이라고만 했으나, 여기서는 국제적 표기에 따라 1922년으로 쓰고 창립일의 중요성을 고려해 날자 3일도 삽입하였다.

Декларация

Токусю буракумыны¹¹¹ всей страны, соединяйтесь!

Многострадальные братья! Осуществлявшиеся от нашего имени на протяжении более полувека в различных формах и многими людьми движения¹²¹ не принесли должных результатов. И в этом следует видеть наказание за то, что мы миримся сами и позволяем другим унижать наше человеческое достоинство. Эти движения, хотя внешне и были продиктованы сочувствием, в действительности привели к моральному упадку среди многих наших братьев. Поэтому возникла настоятельная необходимость в создании нами нового коллективного движения, которое через уважение человеческого достоинства привело бы к нашему самоосвобождению.

Братья! Наши предки всем сердцем стремились и прилагали практические усилия для достижения свободы и равенства. Они были жертвами низкой и подлой классовой политики и мужественными¹³¹ мучениками промышленного производства. За то, что они сдирали шкуры с животных, с них сдирали их живую плоть; за то что они извлекали сердца убиенных животных их теплые человеческие сердца рвались на куски. Они были осмеяны и оплеваны. Однако, несмотря на все кошмары, их наполненная гордостью человека кровь не иссыкала. Сейчас пришло время, когда мы, человеческие существа, в которых течет эта кровь, скоро восстановим наше божественное достоинство.¹⁴¹ Пришло время, когда жертвы избавятся от выжженного на них клейма. Пришло время, когда будет благословен терновый венок страдальцев.

Пришло время, когда мы сможем гордиться принадлежностью к Эта.¹⁵¹

Впредь мы никогда не должны рабскими словами и трусливыми делами позорить наших предков и осквернять человека. Мы, кто хорошо знает, каким холодным может быть человеческое общество, кто знает, что такое сочувствие, от всего сердца воспеваляем и устремляемся к теплоте и свету человеческой жизни.

Итак, Суйхэйся рождено.¹⁷¹

За теплоту человеческого общества, за свет во всех человеческих существах!

03 марта 1922 года¹⁸¹

Суйхэйся

Основные принципы

1. Токусю буракумины исполнены решимостью достичь абсолютного освобождения в результате своих собственных действий.
1. Мы, токусю буракумины, исполнены решимостью требовать и добиваться от общества абсолютной свободы в экономической деятельности и в выборе профессий.
1. Мы должны осознать основополагающие принципы природы человеческого существа и совершив прорыв к наивысшему совершенству человека.

Примечания

[1] Токусю буракумины

В японском языке слово «бураку» означает деревню (поселение) или общину, а слово «мин» означает людей. Поэтому «токусю буракумин» можно перевести как «люди особых поселений». Приблизительно с 1900 года этот дискриминирующий термин стал намеренно использоваться правительством для создания у японцев представления о том, что буракумины отличаются от обычных людей и являются особыми занимающими низшее положение существами. Основатели Общенационального общества уравнительного движения, сами являясь буракуминами, сознательно использовали выражение «токусю буракумин». При этом они исходили не из чувства самоуничижения, а из чувства гордости за принадлежность к буракуминам.

[2] Братья

Так как среди подвергавшихся дискриминации за принадлежность к буракуминам были мужчины и женщины, в данном случае это обращение следует понимать как «братья и сестры». Поскольку в то время в японском обществе осознание прав женщин было на весьма низком уровне, основатели Общенационального общества уравнительного движения обращались в Декларации в основном к буракуминам-мужчинам.

[3] Движения

В данном случае под «движениями» понимаются «кайдэн ундо» (движение за улучшение) и «юва ундо» (движение за примирение). Эти движения существовали до образования Общенационального общества уравнительного движения и имели в своей основе стремление добиться сочувствия народных масс к положению в поселках буракуминов. Деятельность этих движений была направлена на улучшение санитарно-гигиенических условий и обычая и нравов (поведение, особенности языка и т.д.) в поселках буракуминов, а также на интеграцию буракуминов в общество и примирение с ними. Основатели Общенационального общества уравнительного движения строго критиковали эту деятельность, ибо она имела унизительный характер просыб о милосердии и не была направлена на реальное достижение равенства.

[4] Мужественный (здесь: свойственный мужчинам).

Хотя использование в данном случае этого слова имеет цель подчеркнуть производственную роль буракуминов, здесь просматривается и существовавшее в японском обществе представление о превосходстве мужчин над женщинами.

[5] Мы, человеческие существа, ... скоро восстановим наше божественное достоинство.

По мнению составителей Декларации, если ранее Бог представлялся как абсолютная сила и являлся для людей объектом поклонения, то отныне должны наступить времена, когда человек сам будет выступать как божественная сила, достойная уважения в качестве существа с неограниченными возможностями.

[6] Эта

Это крайне дискриминационное выражение, дословно означающее «наполненный грязью», стало широко употребляться в Японии в период Эдо (1603-1867 гг.) в системе разделения людей на подобные классы. Оно продолжало использоваться в отношении буракуминов и в новейшее время. Основатели Общенационального общества уравнительного движения, выступали с решительными протестами против использования этого термина. Однако в обращении к буракуминам они заявили, что следует гордиться принадлежностью к Эта.

[7] Суйхэйся

Слово «суйхэй» означает «горизонтальный» или «уровень». Оно было применено как призыв к созданию общества одного уровня, без какой-либо дискриминации людей. Для достижения этой цели и было использовано название Суйхэйся, в котором «ся» означает «общество» или «союз». В то время этот термин являлся синонимом названий самостоятельных организаций за освобождение жителей Бураку. В соответствии с региональным уровнем организации являлись общенациональной, префектуральными и районными.

[8] 03 марта 1922 года

На оригинале текста Декларации указана дата создания Общенационального общества уравнительного движения – «март, Тайсё II». «Тайсё» – это период правления императора Тайсё. По существующей традиции в Японии используется летосчисление по годам правления императора. В соответствии с общепринятой в мире системой Христианского летосчисления мы указали в переводе дату 3 марта 1922 года с тем, чтобы подчеркнуть важность определения точной даты образования Общества.

Declaración

Tokushu Burakumin de todo el país : ¡Uníos!

¡Hermanos en el sufrimiento de siempre! En la última mitad del siglo, los movimientos en nuestro favor realizados por numerosas personas y de diferentes maneras, solo han logrado alcanzar magros resultados. Este saldo negativo es el castigo por habernos permitido a nosotros mismos como también a otros, degradar nuestra propia dignidad humana. Los movimientos anteriores aparentemente motivados por criterios compasivos, han corrompido a muchos de nuestros hermanos. Por lo tanto, resulta hoy imperativo que organicemos un nuevo movimiento colectivo con la finalidad de liberarnos, impulsando la promoción del respeto a nuestra dignidad humana.

¡Hermanos! Nuestros antepasados buscaron y practicaron la libertad y la igualdad. Fueron víctimas de una vil y degradante política de clases que los transformó en varones mártires de la industria. Como tributo a su tarea de despellejar a los animales, ellos mismos fueron despojados de sus propios pellejos vivos. Como compensación al trabajo de arrancar el corazón de los animales, sus propios tibios corazones fueron rasgados y además, sometidos al ridículo y escupidos. Sin embargo, aún en el curso de ese infierno, su orgullo humano yacía en la profundidad de sus sangres. Ha llegado el tiempo en que los hombres, bajo el pulso de esa sangre, alcancen la dignidad divina. Ha llegado el tiempo en que las víctimas rechacen y se sacudan sus estigmas. Ha llegado el tiempo en que los mártires adquieran la bendición para sus coronas de espinas.

Ha llegado el tiempo en que nos sintamos orgullosos de ser Eta.

Nunca debemos avergonzar a nuestro antepasados, ni profanar a la humanidad mediante palabras serviles y actos cobardes. Nosotros que sabemos cuan fría puede ser la sociedad humana y conocemos bien las consecuencias de la compasión, buscamos con reverencia el calor y la luz de la vida humana desde lo más profundo de nuestro corazón.

Aquí nació el Suiheisha.

Que reine la cálida ternura en la sociedad humana, que brille la luz en todo ser humano.

3 de marzo de 1922

Suiheisha

Principios Generales

1. Nosotros, los Tokushu Burakumin, debemos alcanzar nuestra total liberación por medio de nuestras propias acciones.
 1. Nosotros, los Tokushu Burakumin, debemos llevar adelante nuestras demandas para la obtención de la total libertad de nuestras actividades económicas y para la libre elección de ocupaciones.
 1. Nosotros, los Tokushu Burakumin, debemos tomar conciencia acerca de los principios fundamentales de la humanidad y juntos marchar hacia su más alta perfección.
-

Notas

【 1 】 Tokushu Burakumin

En japonés el término “Buraku” significa poblado/comunidad y el término “min” significa gente o poblador. “Tokushu” significa especial. Por lo tanto, la expresión “Tokushu Burakumin” deberá entenderse como gente o poblador de una comunidad especial. Alrededor de año 1900, la frase comenzó a ser deliberadamente usada por los funcionarios del gobierno nacional y local de manera discriminatoria. Su intención fue enfatizar la percepción de la población de Buraku, de que estos poseen rasgos distintivos inferiores en comparación con el resto. Los fundadores de la Asociación Nacional para la Igualdad, ellos mismos pertenecientes a la comunidad Buraku, usaron intencionalmente la expresión “Tokushu Burakumin” para expresar positivamente su identidad y no como una expresión de auto-deprecación.

【 2 】 Hermanos

Los sufrimientos del pueblo Buraku alcanzaron tanto a los hombres como a las mujeres. Por lo tanto, el término “Hermanos” deberá ser: “Hermanos y Hermanas”. En verdad, la conciencia acerca de la problemática del género ha sido muy débil en la sociedad japonesa y los propios fundadores de la Asociación Nacional para la Igualdad se dirigían a sí mismos como los “Hombres Buraku”.

【 3 】 Los movimientos

El término “movimientos” se refiere a los Kaizen Undo (movimientos para el progreso) y también a los yuwa undo (movimientos para la reconciliación). Estos movimientos ya existían antes de la fundación de la Asociación para la Igualdad y basaron sus objetivos en la obtención de mejoras sanitarias y de calidad de vida de las comunidades Buraku, como también la integración y la reconciliación social. Los fundadores de la Asociación criticaron severamente la naturaleza de tales movimientos por considerarlos como dedicados a la caridad benevolente, antes que a la obtención de la igualdad.

【 4 】 Varón

Si bien este término enfatiza el lugar que ocuparon los Buraku en el proceso de industrialización, detrás de este uso se esconde la creencia general de la sociedad japonesa en dicha época, acerca de la superioridad masculina.

【 5 】 Y ahora, ha llegado el tiempo cuando los hombres ... estén alcanzando la dignidad divina.

Hasta ese momento, algunos poderes trascendentes parecidos divinos eran considerados como absolutos y objeto de devoción. De ahora en más, ha llegado el tiempo para que los seres humanos retomen sobre sí tales poderes divinos y sean respetados como seres que poseen un potencial ilimitado propio.

【 6 】 Eta

Este término, de alto contenido discriminatorio y que significa “lleno de suciedad”, fue frecuentemente utilizado en la jerarquización social japonesa del periodo Edo (1603-1868) y sigue usándose actualmente en relación a la comunidad Buraku. Los fundadores de la Asociación protestaron fuertemente contra su uso, aunque enfatizaron el orgullo identitario de ser Eta.

【 7 】 Suiheisha

El término “suihei”, que significa horizontal o nivel, es empleado como un llamado a construir una sociedad de total igualdad y sin discriminación. La palabra Suiheisha (“sha” significa asociación), fue utilizada para hacer mención a la asociación de tales objetivos. En su momento el término fue sinónimo de las organizaciones autónomas Buraku de Liberación. Los términos “Nacional” o municipal o distrital como nombres propios fueron emplazados delante del término Suiheisha.

【 8 】 3 de marzo de 1922

El texto original indica como fecha de fundación solamente al: Marzo Taisho 11. Siguiendo la tradición japonesa de nombrar eras, basándose en las dinastías imperiales, “Taisho” (1912-1926) fue la nominación de la era por el Emperador Taisho de entonces. De común acuerdo con la tradición Cristiana Occidental, en esta traducción hemos utilizado el año 1922, incluyendo también la fecha específica del 3 de marzo, a los efectos de poner en evidencia la importancia de la fecha de la fundación de la Asociación Nacional para la Igualdad.

宣 言

エオロ セタッコ オドレホッパ オレレホッパ アウコエボッパ
イリワクウタラ テエータワノ オヤオヤッ イキパアニ エオロア
ポンコ ピリカクニネ シコロネコロ、アキワエカン チャランケア
ニ ネプカヤイライケ オロウンペ イサムアコロカ クスケライボ
テエタワノ イイエボッパロッペ、オヤブウタラ オロワ ウネノ
オカウタラ オロワ アパカシヌシリネ。

ヒネオラウン タパンペネノ アエボッパアウタリシサム アオマオマ コラチアン イキアナッネ
ボロンノオカ、アイリワッウタラ トランネブネ アカラヒ アエシカルン、ネワネヤクン テワノア
ナッネ イイエボッパア ウネノシサム アエヤムワ オラー、ヤイカタカ ヤイトドドイエ セコロ
カネ、ヤイスアンヒ シノピリカ ナンコロ。アエボッパ イリワクウタラ アコロシンリップナッネ
シノヤイトシコテ ソモキノ、ウネノアンヒ エヤイドパウタラ ネアルウェネ。コエドレンノ ネノア
ンイキ ピリカノカラ エヤイドパパ ウタラネ。ネアコロカ アヌエウェン アイエエウェン ウウォ
ラムサッカプリ ネワアンペアニ オッカヨネノアン ネブキアニ アコララコロ ライワアラバ アイ
ララウタラ ネルウェネ。イリエペカ プマハアニ シツヌシサム カブフ アソソコラチ イリアンワ
サンペヘ アヤサ プマハセコロネワ シツヌ シサムサンペ アイコベッパア コラチ ネルウェネ
カシウン アイオラムサッカ アイコトヅセカラ アイオイタクウシコラチ クンネウェンタラア コ
ラチネコロカ ネイタパクノ アオラムサッカ シサムアナッネ シサムネ シサムケミヒ ソモサッノ
アンルウェネ。ヒネオラウン アオカアナッネ タパンアケミヒ ピリカヒネ イヨラムサッカロッ
シサムテケヘオロワ カムイテケヘウン アオカリヒネ ピリカオカ アキエアシカイヒ、エクシリネワ
。アウタリヒ アイリワキヒ アオラムサッカコロ アライケ ポドルケシ イキロッ イヨラムサッカ
シサムウタラ エウン ヘトポホロカ アオスラ アピイエカラ エアシカイヒ エクルウェネナ。ライ
ワイイサム アオラムサッカアウタリ コロワオカア アイウシサパンペ ラムアイエヒ エッルウェネ
ワー。アオカアナッネ エタ セコロアイイエヒ、タネアナッネ ネノアンハワシ ソモアエヤイシト
マヒ エクルウェネナ。アオカイアナッネ エタラカ ヤイクルラムテ イタッ コエドレンノ アコ
ロシンリッ アオラムサッカヒ イララシサムウタラ、アコパシロタヒ ソモアンペネナ。ヒネオラウン
ウネノシサムネヤッカ ウコソモタシヌヒ ネワアンペカ アエラマンワ ウウォマオマ ソモアキノ
アオカウタラ アナッネ ラモッシワノ エタシサムアネヒ ヤイオラムサッカ ソモアキノ アエボ
ッパ シサムアネヒ ラモッシワノ スクナドイカタ ドマシヌ キヤイネ ドマシヌ ウラムケシカチ
ューネ ネワアンペクス テワノアナッネ イラウェ テッパネ アコロペネナ、
水平社 タパンペネノ シツ オ ルウェネ。
アエボッパ シサムウタラ カシタ ユブケマウエヘ ユブケキヤイネ アンクニネ。

大正十一年三月

水平社

水平社宣言・綱領の翻訳にあたって

水平社宣言・綱領を複数の言語に翻訳する試みは2000年後半に始まりました。翻訳を進めるにあたってはまず、日本文の原典を決定する必要がありました。検討の結果、全国水平社創立大会で配布されたものを基本とすることにしました。それは、京都市立崇仁小学校所蔵のものです。次に、日本語の宣言と綱領をどう解釈するかを定めなければなりませんでした。そして、英語の翻訳に移りました。私たちが知る限り、その当時までに宣言の英語訳が5つ、綱領の英語訳が2つ発表されていました。特に参考にしたのは、George De Vos & Hiroshi Wagatsuma、R.G. Stieber、Masa Cho による宣言訳、Ian Nearyによる綱領訳です。翻訳は、日本語の宣言と綱領原文にできる限り忠実であろうと努めました。英語訳の完成が近づいたのをみて、他の言語への翻訳が始まりました。なお、日本の部落問題に対する詳しい知識を持たれていない方に対する補足説明、あるいは80年前の宣言と綱領を今日の視点から考察した際に問題と思われた箇所は、註の中に記しています。アイヌ語は諸般の事情により宣言のみになっています。なお、日本文のふりがなは、原文にはありませんが、最も適当と思われるものを現代仮名で付しました。また、視覚障害者のために日本語の点訳を用意しています。お入用の方は部落解放・人権研究所へご連絡ください。宣言と綱領の解釈、各言語への翻訳に際し、ご協力下さった以下の皆様に心より感謝申しあげます。

〈宣言・綱領の解釈〉 秋定 嘉和、朝治 武、守安 敏司

〈翻訳〉 (中国語) 李 燦、(英語) 部落解放・人権研究所、(フランス語) Catherine Cadou、

(ドイツ語) 金子 マーティン、金子 えりか、(韓国語・朝鮮語) 姜 恵楨、

(ロシア語) 吉田 勝次、Anatoli Koshkin、(スペイン語) Mario Jorge Yutzis

(アイヌ語) 萱野 茂、(点訳) 毎日新聞社点字毎日

〈翻訳協力〉 (中国語) 角岡 賢一、(英語) 武者小路 公秀、平沢 安政、平沢 清美、

Ann B. Cary、Ian Neary、Ian Laidlaw、Sara Willie、Jonathan LeBreton、

Alastair McLauchlan、林 淳萬、藤本 伸樹、(フランス語) Theo Van Boven、

(韓国語・朝鮮語) 根本 理恵、(スペイン語) 古屋 哲、Antonio Cardenas、

(点訳) 野嶋スマ子

(いずれも敬称・肩書き略)

この本には掲載されていない言語による宣言と綱領の翻訳を是非当研究所にお寄せください。

2002年3月

〒556-0028 大阪市浪速区久保吉1-6-12 部落解放・人権研究所

電話 06-6568-0905, 1306 FAX 06-6568-0714 E-mail : udhr@b1hrri.org

Acknowledgements

In late 2000 we began a project to translate the Declaration and General Principles of the Suiheisha. We firstly had to build a consensus interpretation of the original Japanese texts, after which we undertook the English translation. As far as we knew, 5 English translations of the Declaration and 2 English translations of the General Principles had already been produced. For our translation of the Declaration we mainly referred to the three separate translations by George De Vos & Hiroshi Wagatsuma, R.G. Stieber and Masa Cho. For our translation of the General Principles we referred to the translation by Ian Neary. We have done our best to ensure that the resulting translations are as faithful to the original Japanese text as possible. Translation into several other languages began when the English translation was nearing completion. Additional explanations for those who are not familiar with the Buraku issue, along with points where questions have arisen through recent reconsideration of the 80 year-old Declaration and General Principles, are included in the notes. For several reasons, translation of Ainu was limited to the Declaration.

We wish to express our deepest gratitude to the following translators and supporters.

Interpretation of the original texts: AKISADA Yoshikazu, ASAJI Takeshi, MORIYASU Toshiji

Translation: (Chinese) Li Can, (English) Buraku Liberation and Human Rights Research Institute, (French) Catherine Cadou, (German) KANEKO Martin, KANEKO Erika, (Korean) KANG Haejung, (Russian) YOSHIDA Katsutsugu, Anatoli Koshkin, (Spanish) Mario Jorge Yutzis, (Ainu) KAYANO Shigeru

Support: (Chinese) KADOOKA Ken-ichi, (English) MUSHAKOJI Kinhide, HIRASAWA Yasumasa, HIRASAWA Kiyomi, Ann B. Cary, Ian Neary, Ian Laidlaw, Sara Willie, Jonathan LeBreton, Alastair McLauchlan, Soon Man Rhim, FUJIMOTO Nobuki, (French) Theo Van Boven, (Korean) NEMOTO Rie, (Spanish) FURUYA Satoru, Antonio Cardenas

(names listed here appear with titles omitted)

Please send us your translations of the Declaration and General Principles in any other languages that do not appear in this book.

March 2002

Buraku Liberation and Human Rights Research Institute
1-6-12 Kuboyoshi, Naniwa-ku, Osaka 556-0028, Japan
Tel:06-6568-0905, 1306 Fax:06-6568-0714 E-mail:udhr@blhrri.org

水平社宣言・綱領

2002年3月3日 初版第1刷発行

2004年3月31日 初版第2刷発行

[編集・発行] (社)部落解放・人権研究所

大阪市浪速区久保吉1-6-12 TEL06-6568-1306 FAX06-6568-0714

[発売元] (株)解放出版社

大阪市浪速区久保吉1-6-12 TEL06-6561-5273 FAX06-6568-7166

振替00900-4-75417

東京営業所 TEL03-3291-7586 FAX03-3293-1706

東京都千代田区神田神保町1-9、稻垣ビル8F

[印刷] 大信写植印刷(株)

[装丁] 畠佐 実

[イラスト] 黒田征太郎

ISBN4-7592-6063-3 NDC361.86 28p 25.6cm

落丁・乱丁おとりかえします

The Declaration and General Principles of the Suiheisha

Published in Japan, March 2002

Edited by Buraku Liberation and Human Rights Research Institute (BLHRI)
TEL(81-6)6568-1306 FAX(81-6)6568-0714

Published by Kaiho Syuppan-sha

1-6-12 Kuboyoshi, Naniwa-ku, Osaka 556-0028, Japan

TEL (81-6) 6561-5273

Tokyo office

Inagaki Building 8F, 1-9 Kandajinpo-cho, Chiyoda-ku, Tokyo TEL (81-3) 3291-7586

Printed by Daishin Inc.

Designed by HATASA Minoru

Illustrated by KURODA Seitaro

ISBN4-7592-6063-3 NDC361.86 28p 25.6cm

9784759260632

1920036006007

ISBN4-7592-6063-3

C0036 ¥600E

定価600円+税

解放出版社